

SSHにおける探究活動を通じた

自律的な試薬取り扱いと安全性の確保について

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 自然科学系（理科）

氏名 清水 風月

愛知県立 A 高等学校では平成 30 年度告示の高等学校新学習指導要領に示された“理科教育の充実”の一環として新設の「理科探究基礎」、「理科探究」に先駆け、3年間を通じた文理融合型の探究活動を行なっている。本研究は、その探究活動において行われている各種の実験の安全確保について疑問を感じたため実施した。厚生労働省化学物質対策課が令和 3 年 7 月 19 日に公表した文書では、化学物質を扱う組織においてより“自律的”な体制が求められている。探究活動における実験は、目的や手順、使用試薬、機器、器具といったものを生徒自身が考えて選択し、実験計画を立てた上で教員の許可を得て実験を行う形式をとっている。その際の自律的な安全確保能力育成のため、KYT（危険予知トレーニング）を通じ危険察知能力を育成し、SDS（Safety Data Sheet）を用いた情報収集能力を育成し、危険予知能力を身につける試みを行った。